

船舶事故調査報告書

平成22年1月14日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲也
 委員 根本 美奈

事故種類	火災
発生日時	平成20年12月24日 01時15分ごろ
発生場所	北海道松前町 江良漁港西方沖 江良港島防波堤灯台から真方位283° 2.2海里付近 （概位 北緯41° 33′ 東経139° 56′）
事故調査の経過	平成20年12月24日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 長 寿丸、19.51トン HK2-20831（漁船登録番号）、個人所有 16.50m (Lr) × 3.75m × 1.35m、FRP ディーゼル機関、525kW、昭和54年3月26日
乗組員等に関する情報	船長 男性 47歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 昭和54年10月30日 免許証交付日 平成18年1月23日 （平成23年7月25日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、平成20年12月23日23時30分ごろ、船長ほか甲板員1人が乗り組み、いか釣り漁の目的で、北海道松前町江良漁港を出港し、江良漁港西方沖の漁場に至って操業を始め、漁獲物の箱詰め作業中、翌24日01時15分ごろ江良港島防波堤灯台から真方位283° 2.2海里付近で、機関室からの異臭に気付き、機関室入口ドアから内部を見たところ、煙が充満していた。 船長は、僚船に電話で救助を求めるとともに、消火器による消火を試みようとしたが、火勢が増したため、船首部に避難し、来援した僚船に甲板員とともに救助された。 本船は、乗組員が救助された後、連絡を受けて駆けつけた巡視船が消火活動を行ったものの、沈没した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西北西、風速 7.3m/s 海象：平穏
その他の事項	進水後、30年が経過していた。 平成20年8月ごろ、主機の燃料高圧管にき裂が発生し、燃料が霧状に噴出したことがあった。

	<p>機関室内に集魚灯安定器が設置されており、過去に何回か配線に短絡が生じ、発火したことがあるが、いずれも火災には至らなかった。</p> <p>過去に安定器の電気配線が擦れたため、一部の配線を取り替えたことがあった。</p> <p>機関室内の壁や天井に、自動消火器（自動的に破裂して火災を消火する消火器）が3個、設置されていた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>なし</p> <p>機関室から出火したものと考えられるが、その原因は明らかにすることができなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が江良漁港の西方沖において漁獲物の箱詰め作業中、機関室から出火したため、発生したものと考えられる。</p>	